

Q 6 : ボール運動の個人及び集団の技能向上のためには、どのような指導の工夫が考えられるか。

A : ボール運動の個人技能や集団技能の向上のためには、楽しみながら技能の向上を図ることができるドリルゲームやタスクゲームを導入することが考えられる。一斉に何種類かのドリルゲームやタスクゲームを経験しておく、単元の進んだ段階では、チームごとのウォーミングアップや練習メニューにも取り入れることができる。

【ドリルゲーム】

ドリルゲームとは、単調な反復練習ではなく、練習内容をゲーム化したもので、基本的な個人技能を高めるための活動である。ゲームに必要な技能を高めるために、楽しく有効なゲームとなるように工夫をする。はっきりと評価できるような行動目標(回数、時間、点数など)を設定し、ゲーム化する。技能の向上を具体的な数値で知ることができ、仲間と競争するなど楽しみながら基本的な技能を身に付けることができる。

例)「ソフトボール」

「投げる」「打つ」「捕球する」といった技能の習得のため

- ・10m間隔で3人が立ち、1分間に何回送球できるか
- ・何本続けてゴロが打てるか。

などの課題を設定し競い合う。

【技能のポイントを指導する】

教師が先にポイントを示したり資料を与えたりする指導のほかに、技能にかかわる発問をしたり実際に活動させたりすることにより、児童生徒に技能のポイントやコツを考えさせる指導も必要である。

【タスクゲーム】

タスクゲームとは、ゲームを行う上で、自分がチームの一員としてどんな役割があり、攻めや守りの場面でどう動いたらよいか(作戦を含む)を理解して、ゲームの中で生かせるようにするために行う。また、ゲームの反省に基づいた課題を解決するために行う。課題が明確で、その課題が目的として学習されるような「課題ゲーム・ミニゲーム」を設定する。目標(回数、時間、勝敗など)を設定すると、仲間や相手チームと競争したり教え合ったりして、楽しみながら学習することができる。

【タスクゲームづくりの原則】

習得させたい技術的・戦術的な課題を明確にする。
課題に応じて少人数化を図る。
本来のゲームの特性を失わないようにする。

例)「セストボール」(バスケットボールに似たスポーツ)

- ・ゴールがコートの中にあり、ドリブルが禁止されている。ポートボールにも類似している。
- ・ドリブルができないので、オフ・ザ・ボール(ボールのないところ)の動きを習得するために適している。

【技能のポイントを指導する】

ドリルゲーム同様、技能にかかわる発問をしたり実際に活動させたりすることにより、児童生徒に技能(動き方など)のポイントを考えさせる指導も必要である。また、タスクゲームで学習したことを、チームとして本時や単元のまとめのゲームで生かすようにする指導が大切である。